

# おのりの事知

## から相談政動県

この題をみられた方は、一体どんなことを、書いているのだろうか、とびつくりされるでしょう。

最後までお読みいただければ、この題をつけたわけが、ご理解いただけることと思います。

それよりもみなさんは、フィードバック・システムという言葉をご存知ですか。

ある本には、「復命修正組織」とか訳されていたようですが、手近かな辞典を索いてみますと、「電気回路の出力の一部を再びもとに戻して入力側に入れてやり、出力の調整をはかることを行い、戦後は自動制御と情報伝達の基本的概念として取上げられている」とあります。これだけではないのかとわかりませんので、わかりやすく人間の組織で考えてみたいと思います。

ご飯を食べるときのことを例にとつてみますと、先づ命令機関である大脳が手に対して食物を口へ運ぶように命令したにもかかわらず、手が鼻へもつていったとします。鼻は直ちに食物が鼻へきたことを神経という情報機関を通じて脳へ連絡します。脳は情報をキャッチすると同時に手に対してもう少し下を持つて行けという修正の命令を出します。

このように、一度与えられた命令が間違つて行なわれたり、目的を果たせない場合であつたとき、直ちにその情報が伝達されて正しく修正された。

れるという組織、それをフィードバック・システムと呼んでいるのです。

### ■ 行政組織では……

では行政組織のなかで、フィードバックと呼ばれるシステムは何なのでしょうか？

首脳の考え方や政策、あるいは事業の実施にあつては、広報という手段によりあるゆる媒体を利用して、広く末端に浸透させ理解と協力を深めるよう努力がなされております。しかしこれは、水が山のいただきから、ふもとの方へながれひろがるようなものでごく自然に流れやすいものですが、その水がどのようにながれたか、そのような流れ方でもとの方はよかつたかどうか、という下部のコミュニケーション(情報)は、水が上に流れないと同じようになかなかつたわりにくいものです。

ただ民主政治のもとでは、住民コミュニケーション(情報)の反映の場として議会が考えられます。

しかしながら議会は「住民全員が直接参加するものではなく、その代弁者によつて政治に参与するものであり、かつ議員の考え方が住民一人一人の考え方と一致しているとは思はず、また議員の期間四年間には住民の考え方もいろいろ変化するため、その把握も困難であろうと考えられるので、住民のためのコミュニケーション反映の場としては完全なものではない」という説があります。そうするとこれも最良のフィードバック・システムとも云えませんが、重要な存在となつてくると考えられますが、それはなんなのでしょうか。

ードバック・システムとも云えませんが、

それは広報と肩をならべ、車の一方の側の車輪にもあたる公聴事業がそれです。

そのために、県では陳情、要望の処理、エコカード、移動県政相談など公聴の三つの柱を基礎として、県民の室における個人相談、あるいは投書の処理などいろいろと公聴業務を行なつています。

このうちで多少自画自賛めきますが、フィードバック・システムとして非常に効果も高く、住民にも喜ばれ、併せて県政の広報も兼ねてなえている移動県政相談について少し述べたいと思います。

### ■ 移動県政相談……

県で移動県政相談という呼び名を使いはじめたのは三十五年からです。

それ以前にも、昭和三十一年度天草地方で行なわれた天草文化船を皮きりに、三十二年度の「阿蘇高原を行く文化キャラバン」・三十三年度球磨盆地を行く文化キャラバン・三十四年度の矢部郷を行く文化キャラバン」などがありました。これは三十五年度から始められた移動県政相談とはやや趣きをこととした、どちらかといえば健康相談をはじめとした住民サービスを通じて県政広報をすることが主な内容のよう

### ■ フィードバック・システム

しかし、三十五年度からはじめられた移動県政相談、とくに三十六年度からの地元住民と知事が膝を交えて話しあうことを主体としたものは、住民からの意見、要望あるいは苦情などについて直接知事がこれ聞き、よく話しあつて相互に理解を深めるとともに県政に反映させるべきは反映し、住民との溝をできるだけせめようとすることを狙いとしています。すなわち住民の福祉を希う為政者と主権を持つ住民とが、その間に横たわる行政機構と手続きとかいった障りを除いて、皆かにフィードバックし、かつPRすることなのです。

住民のなかにはまだ一度も「知事の顔」を見た事のない人もおられるでしょう。顔もみたことのないまま、話しあつたこともないままに、良かれと思つてやつた県政に、大きな誤解が生じ、距離が広まつていることに全く気付かないということがあります。人間の顔が感情を現わすものであれば、お互いに顔を合わせながら、よく話しあつてゆけば、さらに一層の理解をふかめることができると考えられます。

その意味においても、ある日一堂に会し、お互いがぐらをかいて「知事の顔」と間近かに話しながら自己の意見、苦情などを皆かにぶつければ、知事が直接答えをきいて、県施策を正しく認識を深めてゆくことは、話しあひをたてまよとする民主政治の基本理念からいって、また住民自治の見地から考えても、理想的